

# ノルマン様式城郭の始まり

## 1. ローマ軍撤退からノルマン軍侵攻開始

～ 600 年間の内乱期の歴史物語を 1 ページで～

✧ 紀元 326 年に中央アジアの遊牧民の**フン族**（何者か定説がない）に押された西アジアのアラン族などが西進してゲルマン人の東ゴート族の領地を突破し、西ゴート族と武力衝突し、主として西ローマ帝国内で内乱が起きた。



✧ ヨーロッパ大陸で弱体化していたローマ帝国は、ゲルマン人から防衛するために、紀元 410 年にイギリスにいた軍団を撤収した。そこに、スコットランドから原住民の**ピクト人**が侵入し、「Roman Britain」の時代が終わり、イギリスは無政府状態になった。

✧ そこに、現・北ドイツから**アングル人・サクソン人**が、また現・デンマークから**ジュート人**がイギリスに侵入してきた。アングル人・サクソン人・ジュート人を纏めて「**アングロ・サクソン人**」と呼び、話していた言葉が「Old English **古英語**」と呼ばれている。

出典 世界の歴史③「ローマとキリスト教」 創元社

アングロ・サクソン人は 6 世紀までにイングランドの大部分を征服したが、その過程で、一部の**ブリトン人**が激しく戦い、ブリトン人の英雄とされた**アーサー王の伝説**はこの頃に生まれた。



✧ 次にイギリスに侵入したのが、現・デンマークからスカンジナビアに住む**デーン人**で、**バイキング**として知られる。デンマークとは「デーン人の国」という意味である。デーン人は、造船と航海術に長けていて、テムズ川の**ロンドン**、セーヌ川の**パリ**などの都市を襲撃したので、遂に **911 年**、フランス王はデーン人に現在の**ノルマンディー**の土地を与えた。

出典 イギリスの歴史 河出書房新社

✧ 人種的にはデーン人から始まったが、彼ら海洋民族は出身の土地の名前では説明がつかない。イギリスの歴史書にはデーン人とバイキング Viking が出てくる。フランスでは「北から来た人 **ノースマン Norseman**」と呼ばれ、彼らが定住した所が**ノルマンディー Normandie**である。



✧ 彼らは一夫多妻制だったが、ノルマンディーに定住して現地女性と結婚し、**子供は母親の言葉**を話すので、子孫は一夫一婦制で、**ノルマン人**と呼ばれる。

出典 図説新世界史資料 五訂版

✧ **1016 年**に、イングランドは**デンマーク王国**の王子**カヌート**によって征服された。カヌートはイングランド王位についたが、デンマーク・ノルウエーの王も兼ね、スエーデンの一部も領有したので、イギリスは北海帝国とも呼ばれる**大アングロ・スカンジナビア王国**に組み込まれた。北海帝国は北海やバルト海から、地中海まで商業活動を行い、イギリス人は優秀な商人に成長した。1035 年にカヌートが没すると、サクソン人の王**エドワード**が即位し、サクソン人支配が復活した。エドワードが 1066 年 1 月に死去すると、サクソン人の貴族たちは後継王に**ハロルド**を選んだ。これに対して、エドワードと親戚で幼馴染だったノルマンディー公**ウイリアム**は、「**エドワードは生前に次期王位をウイリアムに約束していた**」と主張して、1066 年 9 月にドーバー海峡を越えてイングランドに侵攻した。

## 2. ノルマン軍の準備からイングランド征服

- ◇ **1066年**のノルマン人のイギリス征服は、イギリス史上最大の事件であり、ノルマンディー公ウイリアムは現在に続くイギリス王家の初代国王で、特別に**ウイリアム征服王** (King William the Conqueror) と呼ばれている。この事件だけで重要な歴史物語になるが、本稿の目的は「**イギリスの城郭**」であり、物語は省略する。
- ◇ ノルマン人は現・ノルマンディー地方に公国を創設して、定住して1世紀半たっており、バイキングの奔放さや柔軟性、軍事的才能を持ちながら、言語・生活習慣から法律制度まで、完全にフランス化していた。ウイリアムは、イギリス侵攻前にローマ教皇アレクサンドルⅡ世の了解を得ており、征服成功後の分け前などに関しても、ノルマンディー公国の貴族たちを完全に掌握していた。フランスはヨーロッパ文明の中心地であり、最先端にあつたが、イギリスは大きく遅れていた。
- ◇ 下図はノルマン軍が、首都の**カーン** Caen から河口の港町**デイヴェスルメール** Dives-sur-Mer に移動して船団として集結し、イギリス南東部の**ペヴァンジー** Pevensey に進軍するコース等を示している。



大西洋の干満の差が大きくて、大艦隊を集結させる港は近くには無いが、Dives-sur-Mer は河口にあり、**自然の地形を利用したドック付の良港**であった。宮殿がある**カーン**は海から10 kmの河川港で、ロックで水位を調節している。(出典は地図・写真とも William the Conqueror, OREP Editions)

- ◇ 征服の物語は、「**バイユー** Bayeux の**タペストリー**」に描かれている。タペストリーは正確ではなくて、イギリスのカンタベリーで制作された刺繍で**全長 70m**もある。イギリス王になってもウイリアムは殆どをバイユーの隣の**カーン** Caen に住み、私は2008年に訪問した。右の写真はバイユー博物館の入り口のノルマン軍の船の模型(筆者)。



- ◇ タペストリーには、人物626、馬202、船41、建物31が描かれており、兵士の鎖帷子、兜、武器などのほかに、**ハレーすい星**が描かれている(1/7 縮小の10mの複製あり、お貸しできます)。その中から、筆者の好みで、**ワインの樽**を運んでいる部分を採用した。**ナポレオン**は戦争の度に、ブルゴーニュの赤ワイン「**ジュヴレイ・シャンベルタン** Gevery-Chambertin」を持参して連戦連勝し、最後のワートルローの戦いには持参しなかったのがイギリス軍に負けた、とか？



出典 The Bayeux Tapestry, complete reproduction 1/7, EDITION VILLE DE BAYEUX-2007



### 3. モット&ベイリー城郭 (motte-and-bailey castle)

- 1066 年の侵攻に際して、ノルマン軍が上陸後最初にする事は、**ヘイステイングスに砦を建設する事**だった。当初の砦は、**モット&ベイリー城郭** (motte-and-bailey castle) と呼ばれ、モット (motte) と呼ばれる**土塁**(raised earthwork)の上に木造又は石造りの**天守** (keep) を備えた砦(fortification)と、防御用掘割(protective ditch)と柵(palisade)で囲まれたベイリー(bailey)と呼ばれる**中庭**(courtyard)で構成された城郭(castle)である。イングランドに続いてウェールズに広めていった。モット&ベイリー城郭は 12~13 世紀には更にスコットランド、アイルランド、オランダ方面からデンマークで採用されていった。築城技術だけでなく、**Castle** という英語も**ノルマン人が持ち込んだ**。
- この城郭建設技術は 13 世紀末までには新しい技術にとって代わられていったが、土塁は多くの国々で重要な特徴として残って行った。モット&ベイリー城郭という言葉は比較的近代のもので中世のものではない。Motte という語はラテン語の mota のフランス語版で初期には草地(turf)を意味する語であった。それが「草で覆われた堤防」の意味にも使われ、12 世紀には城郭設計そのものに使われた。"bailey"という語は、ノルマンディー地方のフランス語の *baille* または *basse-cour* の派生語で**囲われた土地** (low yard) という意味だった。

### 4. 1066 年 9 月上陸から 2 か月間南イングランドでのノルマン軍の行軍

- 9 月 25 日、スタンフォード橋の戦い@ヨーク
- 9 月 28 日、ペヴァンジー海岸に上陸  
紀元 290 年にローマ軍が建設したペヴァンジー城 Pevensey Castle の廃墟には立ち寄らずに、隊列を整えてヘイステイングス Hastings に向けて移動した。ペヴァンジー城は、後にウイリアム征服王が再整備する事になる。
- 10 月 14 日へ、イステイングスの戦い  
ウイリアムはイギリス国王として即位したばかりのハロルドが率いるイギリス軍と、ロンドン南東 90 km のヘイステイングス近郊のバトルで会戦した。戦った土地の名前が、バトル **Battle** と言うのは冗談みたい、
- ヨークでの城郭建設**ピッキング城 : 戦争物語は省略するが、戦いの舞台はヘイステイングス周辺だけでなくローマ時代のブリタニアの首都ヨークでも戦われていて、ウイリアムがヨーク郊外に建設した。ヨークの北北東約 30km の **Pickering Castle** は当時建設されたが、天守は木造で数年後石造りに改修された。現存する第 1 号かも知れない。



出典 The NORMANS ,The Pitkin Guide

出典 Historical Atlas of Britain, GRANADA

## 5. 10~12月 25日 イギリス王位戴冠@ロンドン・ウエストンinster寺院

- ◇ ノルマン軍のイングランド征服以前のヨーロッパの状況：  
現・デンマーク出身のデーン人主体のバイキングは、現・フランスのノルマンディ地方に定住して、言語・宗教・文化もフランス化し、他のバイキングとは区別して、ノルマン人と呼ばれた。
- ◇ 地図のピンクの国々が、デーン人・ノルマン人が征服または影響した地域である。南イタリアへは海路と、傭兵として陸路で移動した歴史もある。バイキング時代から、北の海の鱈を乾燥させて保存し、シチリアや南イタリアまで進出した。乾鱈の料理は、フランス・スペイン・ポルトガル・シチリア・地中海各地で名物料理になっている。 出典 図説新世界史資料五訂版→



- ◇ ローマ軍が撤退して約 600 年、小さな豪族集団が乱立した時代を経て、アングロ・サクソン人主体のイギリスが見えてきたが、戦国時代末期のような状態であったと思われる。方や、バイキング出身のノルマン公国とは親戚でもあり、身内の争いは感情が絡んで返って難しい。ウイリアムが王位に着くまで 2 か月かかっている。下図に記載された記事の要点：
  - ① 10月14日にイギリス王ハロルドは戦死し、ノルマン軍は5日間休息をとった。
  - ② 東進して、ドーバーで集団赤痢が発生して8日間休息。
  - ③ 当時、イギリスはローマカトリック国であり、大司教座は**カンタベリー聖堂**だったが、ノルマンはこれを破壊した。
  - ④ ロンドンに渡る為に、ロンドン橋南側の街サザークを破壊したが、橋を通過できず、時計回りに迂回した。
  - ⑤ オックスフォード近くの**ウォーリンフォード** Wallingford に逃走していた**カンタベリー総司教ステイガント Stigant** が**ウイリアムに降参し、ローマカトリックがウイリアムのイギリス王位を認めざるを得ない状態**になった。
  - ⑥ ロンドンの手前でイギリス政府幹部、アングロサクソン人貴族が出頭し降参した。
  - ⑦ 12月25日クリスマスに、ロンドンの**ウエストminster寺院**において、フランスノルマンディー北部のクータンズ教会の司教 The Bishop of Coutances が出席して、フランス語でウイリアムをイギリス王に推薦した。イギリス側を取り仕切っていたのは、**ヨーク大聖堂の大司教で、英語で王の戴冠式が行われた。**

注：イギリスは 16 世紀にローマカトリックから分かれてイギリス国教になる。この時代はカトリックなので教会のトップを**司教**とする。ヘンリー8世以降は、**主教**と呼ぶ。



出典 Historical Atlas of Britain, GRANADA



## 6. 征服後 20 年間に建設されたイングランドの城郭

- ◇ イギリスは、「ノルマンの征服」後に、ノルマン人によって文字通りに乗っ取られた。イギリス貴族はヘイスティングズの戦いでほとんどが死んだ。生き残った貴族の抵抗が激しくて平定に 10 年もかかったが、イギリス国王ウィリアム一世は、討伐か処刑して根絶やしにした。当時の文献には、「いまや、イギリスの血を引く貴族は一人もいない」と記している。ただし、1086 年にイギリス人貴族が 2 人だけ残っていた事が記されている。
- ◇ ウィリアムは、遠征前に約束した通りに、イギリス貴族の土地をノルマン貴族に与えた。イギリスにはノルマン人が 1 万人ほどしか残らなかったため、200 万人のイギリス人から護る為に、イギリス中に 2000 以上の城を築いた。下の地図で数えると、70 位だが、**非常時には 1 日で応援できる距離**に建設し、城跡を数えると 500 以上は確認できるようだ。



出典 Historical Atlas of Britain, GRANADA

## 7. ヨーク城 York Castle

下図は、ロンドン市長公邸 (Mansion House) に掛けられているヨークのパノラマで、100 年前に、15 世紀の記録から想像して描かれている。真ん中の大きな川が北海に繋がるウーズ川、右側がフォス川である。ウイリアム征服王は城を 2 つ建てたと記録されたいが、ウーズ川の両側に土塁がある。2 つともノルマン様式 motte & bailey で、囲いも天守も木材で出来ていたが、数年後には石造りに改修された。ウーズ川の西側は現在の駅方面で、土塁もないが、右側 (写真) は天守が 17 世紀のものでクリフォード・タワーと呼ばれている。



出典 イギリス、ヨークシャー地方紙 **The Yorkshire Herald** 1915 年 5 月 18 日付

## 8. アランデル城 Arundel Castle

征服の翌年、ウイリアム王戴冠の一年後のクリスマスに、ノルマンディー貴族のロジャー・モンゴメリーがイギリス南部のサセックスのアランデル伯爵に任ぜられた。



上はアランデル城、下は現在もエリザベス女王のお住いであるウインザー城、いずれも、11 世紀のノルマンのモット&ベイリー城郭がベースである



当初の城は木造の天守 (Keep) だったが、1070 年から 90 年の間に、ノルマンディーのカーンの石 (Caen stone) に改修されている。土塁 (motte) は当初のままである。

以上は、「ノルマン様式城郭の始まり」の半分なので、次回、続きを投稿します。有名な城郭の説明が中心です。